

聖化

'88. 7. 30

日本聖化交友会機関誌

No. 6



聖化交友会の使命

村上宣道

立場を鮮明に、そして広く

「教会はいま、聖化を求めている」というのは確かだと思われます。先般、いわゆるきよめ派でないある二つのグループで、「聖化」というテーマの修養会が開かれ、そこに講師としてお招きを戴いたおりに、その感を一層強くしたことでした。

はつきり言いまして、このグループの方々の求め、また考えている聖化は、聖書が教える私たちの信じる聖化とは明らかにちがいます。そこで筆者は、そうした方々との交りを通して、私たちの聖化交友会の使命、または目的といったものの二つについて、改めて確認させられたように思ったのでした。

その一つは、本会の目的としてうたわれていますように「聖書的な聖化の信仰を確認」することの重要性です。聖書が求め、また恩寵として与えられ、そして実践すべき私たち

の信ずる聖化と、似而非なる聖化（この表現には語弊がありましようが）

との区別は明確でなければならぬはずで、なぜならば、本会の目的は「その立場を同じくするものとの交り」と「協力」がその一つとなつてゐるからで、すなわち、当然のことながら同じくする「その立場」とは何であるのか、時には歴史神学の面から、あるいは聖書神学的に、そして体験と実践的生活の面において、ますます鮮明にされていくべきであらうと思ふのです。

もう一つの点は、「その立場」を強調するのあまり、偏つたセクト主義と見られるようであつてはならず、むしろ積極的に広く宣証して、これを信じて告白する者の輪を拡大していくべきであるということ。それは、聖化が、歴史的伝統的流れの中に於ける私たちだけのものとして決して

あるはずはなく、本質的に聖書の中心メッセージは聖化なのであることを確信し、全教會的な課題としてそれが求められ、また受けとめられていくような努力を重ねること、それが私たちの使命であり、また本会の目的でもあるにちがいないからで、

その拡大的な宣証の一つのこころみとして、地方での聖化大会が九州は福岡を皮切りにスタートし始めたことは、大きな喜びと言わなければなりません。それが北海道は旭川で、中国地方は岡山でというように、聖化のめぐみのうねりは、いまや全国的な規模で広がりを見せようとしています。願わくはこれが一つの機ともなつて、「聖書的な聖化の信仰」の何であるかがいよいよ確認され、確かに聖化を求め、また必要としてゐる現代の教会に、広く、正しく、力強く宣証されるようにと願つて止みません。

『きよめ』とは どういうこと?

インマヌエル主都中央教会牧師

蔦田眞實



聖書を手にしながら、うっかり忘れてしまいやすい一つのことは、その殆どが第一義的には、特定の人々を対象にして書かれている事実です。旧約聖書を開くとき、イスラエル民族とその歴史を忘れては、正しく読むことが出来ません。新約聖書の殆どの部分は、すでにクリスチャンとなつた人々と諸教会に宛てて書かれたことも忘れておくことではないでしょうか。

エジプトの奴隷生活四百年の苦しみから、「あがない出された」イスラエル民族に、神が求められたことの中心的な要点は、「あなたがたの神、主であるわたしが聖であるから、あなたがたも聖なる者とならなければならぬ。」(レビ記19章1節)ということ、このことは、旧約聖書を通じて、色々な角度と表現を用いて、数えきれない程、くりかえし語られています。

すでにクリスチャンとなつた人々と教会に対して、新約聖書もまた「きよくなるならねばならぬこと」が色々な表現で多く語っています。前に引用しましたレビ記の聖言も、大切なこととしてペテロの手紙に引用されています(第一ペテロ1章16節)。だれが見てもすばらしい伝道の成果として、立派なクリスチャンになつたテサロニケ教会の人々に、「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです。」と書かれ、「神が私たちを召されたのは、汚れを行なわせるためではない

く、聖潔を得させるためです」

と言われ、しかも「平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。」という祈りまでが

ささげられています。第一テサロニケ人への手紙にある聖言です。

旧約聖書であれ新約聖書であれ、すでに神の民とされた者たちに、求められ、祈られている「聖潔」のあることは、聖言を学ぶ者がだれでも認め

ることとあります。

◆ プロテスタントは言うまでもなく、ロマ・カトリックであれ、ギリシヤ正教であれ、

神の民は「聖く」なければならぬと信じ、それを様々な形で告白して来ました。文書として伝えられている様々な教条や信仰告白、教派の信仰簡条などを読んで見れば、このことは明らかにあります。クリスチャンが「聖く」なく

てもかまわないと教えるクリスチャンはありますまい。天国に、きよくない者が入るなどとは、聖書を信ずる人なら言えないこととあります。

◆ 教会の歴史の中で真剣に論じ続けられてきたことは、「聖潔」(「きよめ」と言う人が多いですが)そのものが聖書の教え、神の御要請であるかどうかということとなく、それがクリスチャンの経験の中で、

今より我は主なり

基督聖協団 千葉教会 谷中さかえ



私は牧師の家庭の長女として札幌市で生まれ、父の転任で横浜、仙台、名古屋、東京の各地で生活しました。

この五月十九日私は喜寿七十七歳を迎えました。しかし、昨日も今日も永遠に変わることがなく、わが心燃えしにあらざるや、信じ従う者に語ってください。聖霊の生のみ声を聞く喜びで溢れる毎日をすごさせていたただいております。

エスの十字架のもとにへりくだり、それまで犯してきたすべての罪を悔い改めたとき初めて主イエスの愛を受けることができました。そして、汝の罪ゆるされたり、というみことばにより、救いの確信をいただきました。多くの方々に私が変わられたことを証しし、七、八名の友人が教会へ出席するようになりました。

女学校四年生のお正月に、主のみことばをいただいたて献身を迫られましたが、従うことができませんでした。それは、専門学校へ行こうとしていたからです。しかし、病気になるその希望も絶たれ、途方にくれていたとき、再び「己が身を神の悦び給う潔き活ける供物として献げよ」(ロマ二一・一文語訳)とのみことばを受けました。私は、「神様、わかりました。今度こそ私を献

「いつ」、「どの程度に」、「どのように」、「何によって」実現するのか、またその「内容とあらわれ」が何であるかということどもについてであって、その論換は、それについて聖書がどう言っているのか以外のものであってはならないのです。「きよめを信じるとか信じない」というとき、その論議の内容を正しく弁えておくことが大切です。

さて実際の現実にもどりましょう。旧約聖書の神の民にも「聖なる者とならなければならぬ」と言われる色々な問題がありました。偶像崇拜に走ったり、様々な目をおおような汚れた生活の事実、神に対する反逆や不服従が多く記されています。新約聖書でも、妬んだり、淫行に走ったり、分裂したり、福音の証人にはふさわしくない諸問題が、あちらこちらに見られていて、それゆえにこそ「きよめ」が祈られ、勧告され、約

束されていることは明らかです。そしてこの状況はいつの時代の教会、現代の教会とクリスチャンについても、多くの場合、悲しい現実です。

しかし、その現実と同じように、輝いた、力と恩恵に溢れ、愛に満ちて、力強く福音のために、罪に勝って、神に用いられているクリスチャンのあることも事実で、その人たちは、色々な表現ではあっても、「きよめ」と呼べる経験を、信仰者とされた時のそれとは区別して、聖言の成就として証言するのです。

脱線や誇張があるからと、真正な「きよめ」まで軽率に否定してはなりません。神の約束されたような信仰者となるために、真の聖潔を求めて、証しさせて頂きましょう。

「げます。従います」と信仰もって受けました。そのときから病気が回復し、途方にくれていた心に希望が湧いてきました。ついに、私は自分の希望を捨てて、聖書学院に行く準備にとりかかりました。

昭和五年四月、私は淀橋柏木の聖書学院に入学しました。すでににもものすごい祈りの霊が注がれていました。入学したものの、私はただ恐ろしさに身の縮む思いで祈禱会を敬遠し、昼食後の食堂の手伝いをしては時間かせぎをしていました。

そのような私を、ある昼さがり、校庭を散策されていた中田重治監督がみつ、「さかえさん、学院生活に馴れたかね、嫌だったらいつ帰ってもいいんだよ」と言われました。その言葉に奮い立たせられ、本気になって断食祈禱を始めました。

神のみ前に赤裸々に自分を表わして祈り出しました。祈りは痕真似だけでほんとうの祈りはしたことがありませんでした。何もかもが自己中心的な自分の

真相を聖霊によって照らし出され、身の置き所もなく苦しみ、悔い改めの涙にくれました。さらに聖霊は、私がホーリネスの群れに俗化を投げ込もうとして入学したことを見つけ出して示し、私は冷汗の流れる思いがしました。

世間に染らず育てられてきた私でしたので、表面は全き潔き人のように見られておりましたが、実は誰よりも醜い私の姿が分らせられました。入学したとき持ってきた私の荷物がパノラマのように私の目の前に写し出されてまいりました。

私の行李の下半分は、学生時代にアルバイトをして外国から買い求めた楽譜でした。特にオルガンのものが多かったのです。その上に母からもらった細かい着物とはかま、その他のものが入っていたのですが、その楽譜から私の心の真相が示されたのでした。高慢、欲張り、誇りがありませんでした。何と醜い私の心でしようか。私は神様のみ前に、「私の趣味を聖別してください」と祈りました。

そして、私が主イエスの十字架の上で殺され、主のご宝血のゆえに、一切の罪と汚れが赦されたこと信じ、主を仰いだとき、

最早われ生くるにあらず、キリスト我が内に在りて生くるなり

(ガラテヤ二・二〇文語訳)の、みことばを受け入れ、私は全き潔めの恵みの体験をしたのです。ハレルヤ!

私の生活は、自己中心から神中心へと一八〇度の変化をしました。まず聖霊は、折れなかつた私に祈りの霊として宿ってくださいました。五分間祈るのに困難を覚えた私はどこかへ追いやられ、いつても、キリストは之を得させんとて我を捉へたまへり

(ペリビ三・一一)と、私ではなく、我がうちに宿りたもう聖霊によりて祈ることができ、別世界に導かれたような気がしました。それのみではありません。尊い十字架のご宝血はただ我らの心を深めるのみでなく、体質まで新しく造り変える力のあることを私は体験いたしました。

爾来五十八年間、数多くの困難にぶつかってききましたが、私の体験した潔めの恵みは、今も

変わらぬ燃え続けて主に仕えさせていくことができることをただただ御名を崇めて証しさせていたきます。

JHA
10月24・25日(月火) 於(日キ)淀橋教会
聖化大会(第三回)
講師 デビッド・トンプソン博士他

第120回CHA

大会参加記

本間義信 ◆◆



CHAとは、クリスチャン・ホーリネス・アソシエーションの略語であり、ホーリネス連盟の世界組織である。日本ではインマヌエル綜合伝道団が加盟している。ホーリネスの世界的器が説教者として立てられると云うことを聞かせられ、そうした恵みの集会に出たいものだとかねて考えていた。昨年夏、聖会にCHAの前事務局長D・ソールター師をお招きした折に、JHA関係者の加わった交わりの席で同師より一九八八年オレゴンのポートランドで開催されるCHA大会への参加を促す契めがあった。

JHAの中にその志を導いて下さった神は、関係者有志を、インマヌエルの関係者と共に第一二〇回CHA大会の開かれるアメリカ西海岸のポートランドの地に送って下さったのである。四月一八日(日)午後デルタ航空で現地に飛んだ。会場はジェンセン。ビーチにあるレッド・ライオン・インである。日本からの参加者は、岸田馨師、峯野竜弘師及び筆者(以上JHA関係)、竿代忠一師、田中敬康師、葛田敬子師、栗田真樹子師(以上インマヌエル関係)の計七名であった。理事者たちによるJHAからの参加者の夕食招待があり、又第一回目の聖会では全体へ日本人参加者の紹介があった。更にCHA傘下団体代表による総会にも陪席を許された。

第一夜の聖会では、フォックス師によって聖霊によって牧師も、働きも、会衆も新しくされることについて語られた。テキストはヨハネ第一九、二〇章、及び使徒一章一―七節であった。

第二回目は、ハウベーカー師によって、第二コリント三章六一―一、一七一―一八節より主の輝きが私たちにもたらされる、聖霊による霊的、道徳的輝きが強調された。究極的には愛によって輝くのである。

第三回目は、オランダ生れてオーストラリアで献身し、現在ナザレンの宣教師としてハイチで奉仕しているバンビーク師が講壇に立たれた。彼女はいまブードー教の迷信の世界で宣教の闘いをしている。自分はそこに戻って行くが、あなたがたはここにこのままとどまるのか。ホーリネスの宣証の為に今こそ立ち上るようにと招かれた。

第四回目は、ウイルソン師が、イエスの祈りの目的から語られた。イエスは皆の一致を祈ったが、それは機構的一致でなく霊的一致であった。霊的一致はきよめによる人格的内的統合からはじまる。

第三回目には、岸田師が竿代師の通訳で、JHAもいずれCHAに加盟したい、との希望とともに挨拶された。

会場は、夜になると地元の教会のメンバーも加えて六百人以上だったろうか。昼の会長招待レセプションは推算で二百人位であった。会場には救世軍の軍服が著しく目立った。ただそれが大会の故かもしれないが、会場に若い人々の姿が比較的少なかったのは、気になる一点である。

総務委員会より

◆すでに詳細の報告が本誌に掲載されていますが、すぐる四月に、ポートランド市において開催された、米国聖化連盟(CHA)に出席を許され、日本聖化交友会を代表して挨拶をする機会を得ました。一、二〇年という歴史を感じつつ、聖化の宣証のために忠実に奉仕しておられる聖徒方にお会いでき、大きな励ましをいただきました。

◆日本聖化交友会としても、今年はこの働きを全日本に展開すべく、各地区における聖化大会の開催を計画しました。すでに六月は福岡聖化大会が油山シヤローム・チャペルにおいて開かれました。七月六日には岡山大会が、日本イエス岡南教会において、八月二六日には旭川大会が旭川ナザレン教会において、十月六日には名古屋大会が名古屋インマヌエル教会において、開催されます。ご加禱ください。

◆十月二十四日二十五日の両日は、第三回聖化大会が東京の淀橋教会において開催されます。関西では、十月二十八日ウエスレーに学ぶ会にて開催します。今よりご予約に組み入れ、お集まりをお願いいたします。